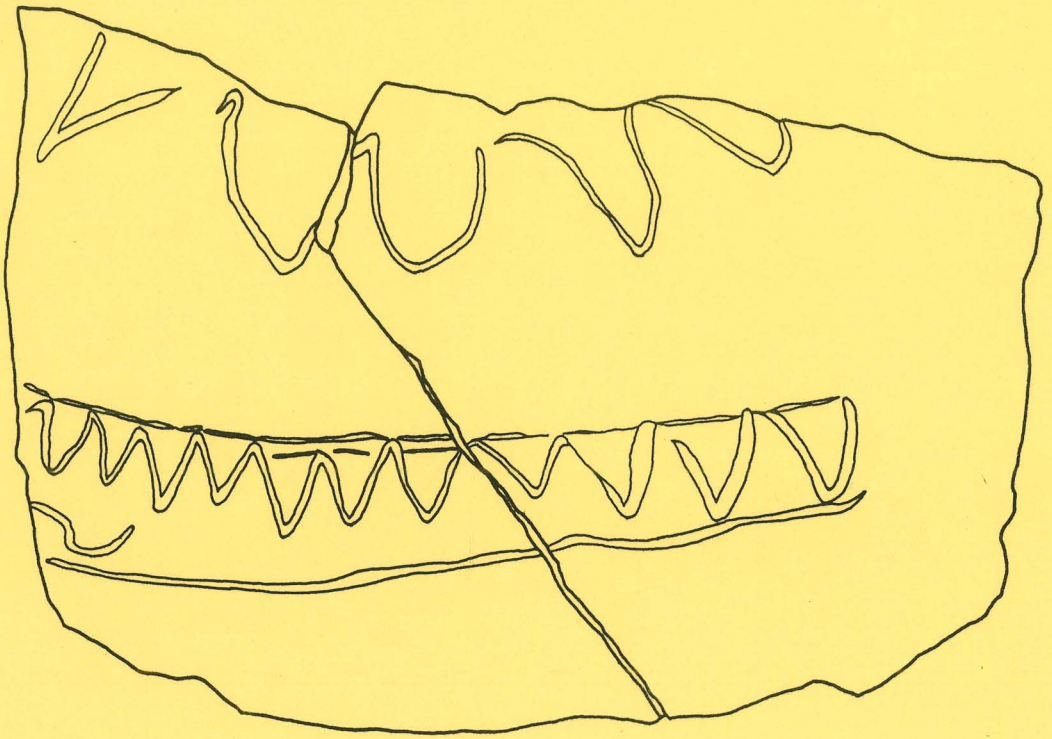


太子町内出土線刻・墨書土器資料



1995年1月

太子町教育委員会

例言

1. 本書は、太子町内で出土した線刻・墨書土器の調査報告である。
2. 資料の整理にあたっては、伊藤慶子、岩村千穂、改発法子、小山真紀、中村幸子、中村豊子、諸石厚子各氏の協力を得た。
3. 本書の執筆・編集は、三村修次、海野浩幸が担当した。

目次

例言

1 調査に至る経過	1
-----------------	---

表目次

表1 線刻土器一覧表	2
表2 墨書土器一覧表	5

図版目次

第1図 線刻土器実測図(1)	3
第2図 線刻土器実測図(2)	4
第3図 墨書土器実測図	5

1 調査に至る経過










太子町内で現在までに出土している線刻・墨書土器は、前者が9点、後者が2点の総数11点を数えるにすぎないが、今後の調査の進展に伴い、さらに増加していくものと考えられる。今回、いまだ少数であるがこれらの遺物の資料化を試みることにした。また、今後の資料の増加に伴い、逐次加筆・修正していくつもりである。

なお、川島川床遺跡出土遺物、川島遺跡溝17出土遺物の2点に関しては、今回現物を観察することが出来なかったため、所載の報告書の記述によった。

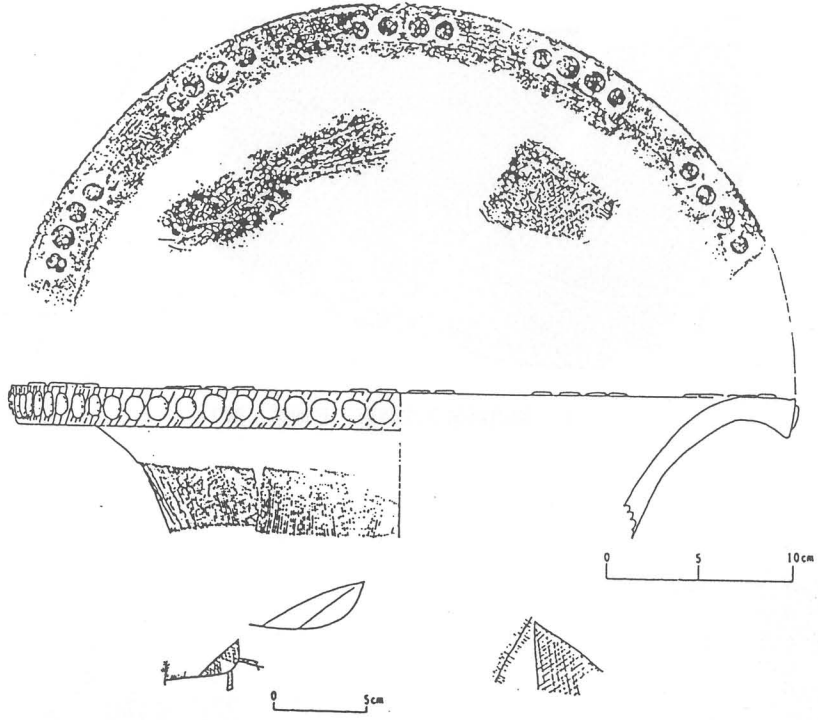
参考文献

- 春成秀爾（1991）「絵画から記号へー弥生時代における農耕儀礼の盛衰ー」『国立歴史民族博物館研究報告 第35集』
- 太子町教育委員会（1971）『川島・立岡遺跡』
- 松本正信・中溝康則・今里幾次（1989）「考古学からみた太子町」『太子町史第3巻 史料編1』太子町
- 兵庫県教育委員会（1994）「原始古代の絵画と文字」『平成5年度埋蔵文化財専門職員研修会資料』
- 龍野市教育委員会（1994）「特別展示 養久山前地遺跡出土の絵画土器片パンフレット」

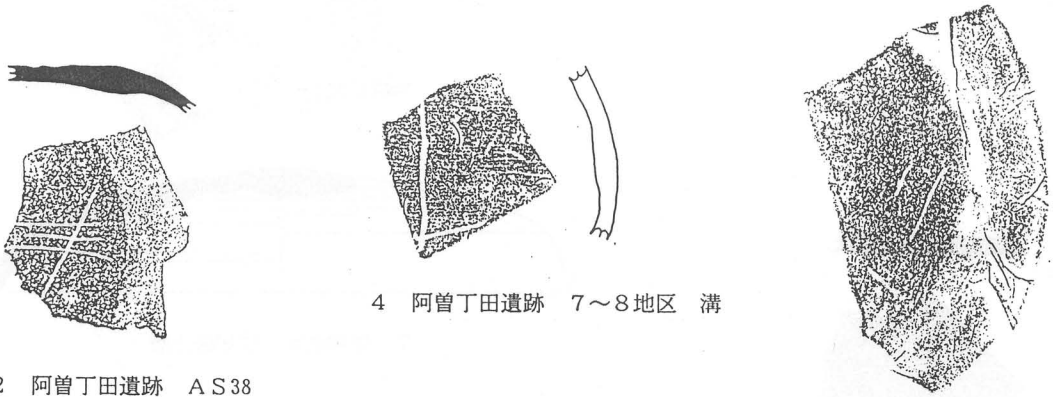
表1 線刻土器一覽表

番号	出土遺跡・遺構	器種	紋様・文字	法量	色調	調整・焼成・その他
1	川島川床遺跡	弥生壺	ヘラ描き 	口径 42.0cm	黄白色	調 内 不明 外 頸部ハケ目、他は不明 胎 精良 焼 不明 場 頸部内面 *太子町史第3巻史料編1 1989より
2	川島遺跡 溝17上層	須恵器 ハソウ	ヘラ描き 	最大胴部径 10.0cm	不明	調 内 シボり目、他は不明 外 不明 胎 不明 焼 不明 場 肩部外面 *川島・立岡遺跡 1971より
3	阿曾丁田遺跡 AS38	須恵器 坏 蓋	ヘラ描き 	縦 約 5.0cm 横 約 5.0cm	内 灰白色 N8 外 灰白色 N8	調 内 回転ナデ 外 天井部回転ヘラ削り、 他は回転ナデ 胎 精良 焼 良好 場 天井部内面
4	阿曾丁田遺跡 AS7KD	土師器 坏	線描き 	口径 14.0cm 器高 1.5cm	内 灰白色 7.5YR8/1 外 浅黄褐色 7.5YR8/4	調 内 回転ナデ 外 底部ヘラ削り後ナデ、 他は回転ナデ 胎 精良 焼 良好 場 底部内面
5	阿曾丁田遺跡 7~8地区 溝	瓦器	ヘラ描き 	縦 約 5.0cm 横 約 4.8cm	内 灰白色 5Y7/1 外 暗青灰色 5PB4/1	調 内 回転ナデ 外 ヨコナデ 胎 精良 焼 良好 場 外面
6	船遺跡第7次 F地区 溝1	土師器 壺	ヘラ描き 	縦 約 9.0cm 横 約 14.0cm	内 黒色 7.5YR1.7/1 外 鈍い橙色 5YR7/4	調 内 指頭ナデ 外 ハケ目 胎 小石粒(2~5mm)をわず かに含む 焼 良好 場 胴上部外面
7	船遺跡第15次 第1トレンチ 溝1上層	弥生 長頸壺	ヘラ描き 	縦 約 6.5cm 横 約 4.2cm	内 浅黄褐色 10YR8/4 外 灰白色 10YR8/2	調 内 摩耗のため不明 外 摩耗のため不明 胎 小石粒(1~2mm)を含む 焼 良好 場 頸部外面
8	南柳遺跡 住居跡上層	須恵器 坏 蓋	ヘラ描き 	口径 15.0cm 器高 3.3cm	内 鈍い橙色 7.5YR7/3.5 外 鈍い橙色 7.5YR6/4	調 内 回転ナデ 外 天井部回転ヘラ削り、 他は回転ナデ 胎 密 焼 不良 場 天井部外面
9	太田・田中遺跡 黒岡神社西表採	須恵器 坏	ヘラ描き 	縦 約 4.0cm 横 約 5.6cm	内 灰色 N6 外 青灰色 5B5/1	調 内 ヨコナデ 外 回転ナデ 胎 精良 焼 堅緻 場 底部外面

*調=調整、胎=胎土、焼=焼成、場=線刻・墨書場所の略
色調は日本色研事業株式会社発行「新版 標準土色帖 1992年版」による。



1 川島川床遺跡 「考古学からみた太子」『太子町史第3巻 史料編1』より

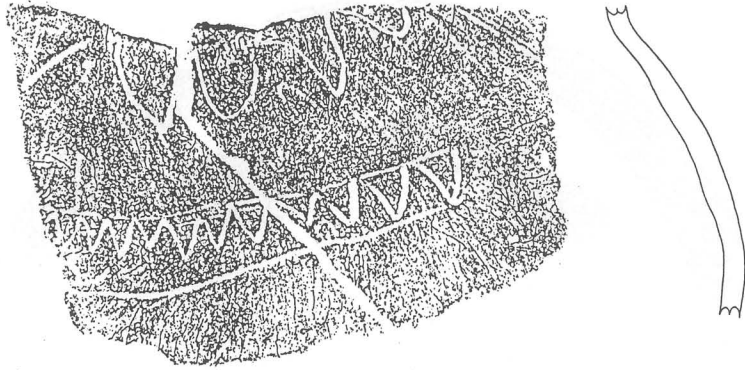


2 阿曾丁田遺跡 AS38

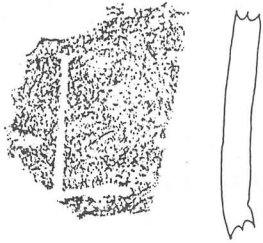
4 阿曾丁田遺跡 7~8地区 溝

3 阿曾丁田遺跡 AS7KD

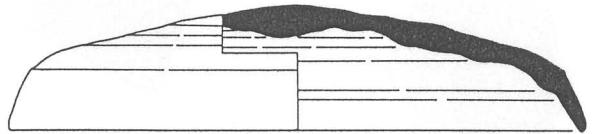
第1図 線刻土器実測図(1)



5 鷗遺跡第7次調査 F地区 溝1



6 鷗遺跡第15次調査 第1トレンチ 溝1上層



7 南柳遺跡 住居跡上層





8 太田・田中遺跡 黒岡神社西表採

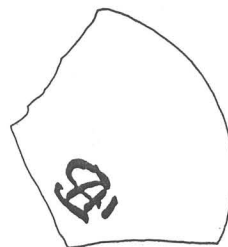
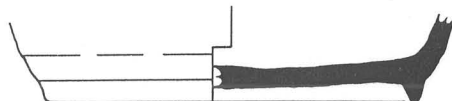
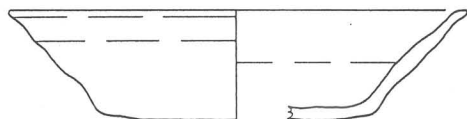


第2図 線刻土器実測図(2)

表2 墨書土器一覧表

番号	出土遺跡・遺構	器種	紋様・文字	法量	色調	調整・焼成・その他
1	阿曾丁田遺跡 AS7SD	土師器 坏	墨書 	口径 12.2cm 器高 3.9cm	内 橙色 5YR6/6 外 鈍い橙色 10YR7/4	調 内 回転ナデ 外 底部へラ削り、他は回 転ナデ 胎 微砂粒をわずかに含む 焼 良好 場 底部外面
2	鷗遺跡第7次 G地区 溝10	須恵器 坏	墨書 	高台径 9.9cm	内 灰黄色 2.5Y7/2 外 灰白色 5Y7/1	調 内 ヨコナデ 外 底部へラ削り後回転ナ デ、他は回転ナデ 貼付け高台 胎 密 焼 堅緻 場 底部外面

*調=調整、胎=胎土、焼=焼成、場=線刻・墨書場所の略
色調は日本色研事業株式会社発行「新版 標準土色帖 1992年版」による。



1 阿曾丁田遺跡 AS7SD

2 鷗遺跡第7次調査 G地区 溝10



第3図 墨書土器実測図

